

議事(2)情報保障の推進について（第2回）

【論点】「情報保障の推進」・「言語としての手話の位置づけ」について

ゲストスピーカーの発言も踏まえつつ、前回問題提起のあった、「様々な手段を規定することの要否」や「障害のある人のための情報保障ではなく、全ての人のための情報保障であること」、「日本手話と日本語対応手話の違いを踏まえた規定」等について、改めて御意見を頂きたい。

論点

- 事業者による情報保障の取組について
 - ・ 情報保障について、事業者に期待される役割・責務を規定すべきか。
- 情報保障の手段について
 - ・ 情報保障のための多様な方法はあくまで例示にとどめ、「障害特性に応じて、障害のある人がわかるように説明することが重要」であることを規定すべきか。
- 情報保障の必要性について
 - ・ 情報保障は、障害のある人のためだけではなく、障害のある人とコミュニケーションを図る都民や事業者にとっても必要であることを規定すべきか。
- 言語としての手話について
 - ・ 言語である手話の認識を広め、都民及び事業者において手話の利用が進むよう、取組を進めるべきことを都の役割とすべきか。
 - ・ その際、独自の言語体系・文化としての「日本手話」と、コミュニケーション手段として日本語を補完する「日本語対応手話」とは区別して考えるべきか。